

受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度

一般選抜（後期日程）入学試験問題

国語

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題用紙および解答用紙を開いてはいけません。
- 二、この表紙を除いて、問題用紙は五ページあります。また、解答用紙は一ページあります。
- 三、問題用紙および解答用紙の印刷不鮮明、ページの不足や汚れに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 四、受験番号と氏名を所定の全ての欄に記入してください。
- 五、解答は、解答用紙の指定された解答欄に記入してください。指定された解答欄以外に記入したものは採点しません。
- 六、表紙および問題用紙の余白や裏面は、適宜下書きや計算などに用いて構いません。
- 七、配付した用紙は全て、試験終了後回収します。



受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般選抜（後期日程）入学試験問題

国語

（二／五）

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

パソコン以前の文章執筆は、「a」であった。何も書いていない真っ白な原稿用紙を前にし、そこに一字ずつ字を埋め込んで、文章を作り上げてゆく。

紙に書く場合にも、直すことはできる。しかし、ある程度以上直すと、読めなくなってしまう。だから、清書する必要が生じる。これは ^① メンドウだ。そこで、まずおおよその構成を頭の中に作り、原稿用紙の最初のマスから書き始めることになる。

ところが、パソコン時代の文章執筆は、「修正」になった。ごく簡単なメモでよいから、最初に何らかの手がかりを作る。あとは、足りない部分の追加、不適切な表現の改良、削除、順序の入れ替えなどを行なってゆくだけだ。このような作業だけで文章ができあがってゆく。

ある程度進んだところで、紙にプリントし、^② それを修正する。私は、修正用に何種類かの好みの赤ペンを選んでいる。これを使って修正すると、ある種の生理的快感を覚えることもある。

無から有を創造するのは、大変な難事業だ。それに対して、すでに存在しているものを修正するのは、精神的にずっと楽である。他人が書いたものの批判は簡単なと同じことだ。「修正による執筆」とは、自分で書いたものを自分で批判する過程に他ならない。

しかも、修正したものでさえ、あとから自由自在に修正できる。c、気楽にできる。例えば、うまい表現がすぐに思いつかない部分は、簡単なメモ書きだけにしておいて、先に進めばよい。

「いくらでも書き直せる」という認識をもつほど楽なことはない。論理の順序や、展開さえも、直せる。言いまわしなどは、いくらでも直せる。どうしても書きたいことだけを、とりあえず書いておけばよい。

私は、いまやパソコンなしで文章を書くことはできなくなった。少なくとも、ある程度以上の長さの文章を書くことは、まったくできない。原稿用紙を一マスずつ埋める作業は、軽業芸のように思われる。かつて自分もそんな難しいことができたかと思うと、^③ キョウタンする。その時代は、^④ もはや石器時代のようにしか思えない。

もし ^{（注1）} ヒルティが現代に生きていたら、パソコンの機能を ^⑤ ゼツサンし、一冊の本をそのために書いたであろうことは、疑いない。

パソコンの使用によって変わったのは、文章執筆のスタイルだけではない。「書く」作業の本質的な性格が変わってしまった。^⑥ とりわけ重要なのは、文章を書いてゆく順序である。

パソコンでは、紙の場合とは異なる書き方になる。まず主張したい結論を書き、つぎに理由を述べるというように、思いついたことをどんどん書いてゆく。こうして文章が前後左右に広がってゆく。似た内容のことが散在していたら、それらをまとめて括る。順序がおかしければ、入れ替える。

そこで、多くの場合に、「行きつ戻りつ」という書き方になる。紙の場合のように一方向的に書いているのではない。最初のうちは文章に ^⑦ すらなっておらず、単語の羅列やメモである場合が多い。何度も読みなおしながら、文章化してゆく。

文章執筆で一番難しいのは、書き始めの部分である。どのように問題提起すればよいのか、それとも結論を最初に言ったほうがよいのか。印象的な書き出しはないものか？

こうしたことを考えていると、ますます書き始められなくなる。パソコンでの執筆の場合には、^⑧ こうした厄介な問題は後回しにして、とにかく書きたいところをまず書いてしまふ。書き出しの文章は、そのうち浮かんでくるだろう。こう考えられるだけで、文章執筆作業は格段と楽になった。

ヒルティは言う。

「序論のために、時間と仕事の興味を失っている人がきわめて多い。（中略）序論や表題は最後に作れというのが、誰にもあてはまる適切な忠告である」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般選抜（後期日程）入学試験問題

国語

（二／五）

修正作業は、細切れ時間を使って行なうこともできる。プリントアウトした草稿を持ち歩いて、昼食のレストランで、電車や新幹線の中で、空港の待合室で、あるいは自宅で気分転換をしたいときに長椅子に寝転んで、といった具合だ。表現の改良などの作業は、このような細切れ作業でもずいぶんはかどる。構えずに、カジュアルな気分でやるのが重要だ。いつも原稿に接していることによって、^①現役効果も^④イジ^④できる。

ただし、いずれかの時点で集中作業が必要である。メモや短文の集積がある程度の長さになったところで、集中して作業できる時間を確保し、全体の構成を確実に整える。このためには、最低限、金曜の夜から日曜の夜までの丸二日間程度をあてる必要がある。他の仕事には一切^⑤煩わされず、これだけに没頭する。本の執筆の場合、このような集中期間が数回必要とされる。こうした大改訂で、文章の構成が一変することもある。

ある程度できあがったところで、最初から読みながら修正してゆく。なお、パソコンの画面だと狭い範囲しか見られないから、紙に打ち出すのがよい。すると、離れた場所にある重複が見つかったりする。

^①このような作業の繰り返しによって、最終的な作品が自然にできあがってくる。このため、きわめて大量の書き直しを行なっている。紙の場合の^⑥推敲がせいぜい数回であったことと比較すれば、まったく異質の書き方になった。

（野口悠紀雄『超』文章法』による）

（注1）ヒルティ Ⅱ スイスの哲学者で著書に『幸福論』がある

問一 傍線部①、②、③、④のカタカナは漢字に直し、⑤、⑥の漢字は読みを書け。

問二 空欄 a に入る適当な語を、文中から二字で抜き出して答えよ。

問三 傍線部⑥について、「修正」の具体的な内容が記述されている箇所を文中から三十字で抜き出し、最初の五字を答えよ。

問四 空欄 c に入る最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア または イ まるで ウ だから エ むしろ オ しかし

問五 傍線部④に用いられている表現上の工夫を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法 エ 倒置法 オ 体言止め

問六 傍線部⑤について、「文章を書いてゆく順序」は、紙の場合はどうだったのが、パソコンになってどう変わっていったのか。八十字以上、百字以内で説明せよ。

問七 傍線部⑥「すら」の品詞を、次のア～カのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 連体詞 イ 副詞 ウ 接続詞 エ 感動詞 オ 助動詞 カ 助詞

問八 傍線部⑧「こうした厄介な問題」の内容を十五字以内で答えよ。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般選抜（後期日程）入学試験問題

国語（三／五）

問九 傍線部⑨「現役効果」を説明したものとして最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 自分の文筆家としてのプライドを保ち続けること
- イ 加齢からくる思考の衰えを少しでも遅らせること
- ウ 型にはまらず自由な発想ができるようにすること
- エ 執筆者として頭をいつも臨戦態勢にしておくこと
- オ いつでも作業に時間を使えるように準備すること

問十 傍線部⑩「このような作業」に該当しないものを、次のア～キのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 紙に打ち出して全体を見る
- イ 似た内容ごとにまとめる
- ウ おかしい順序は入れ替える
- エ 冒頭の文章から執筆する
- オ 思いつくままに書いていく
- カ 集中できる時間をつくる
- キ 全体の構成を確実に整える



受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般選抜（後期日程）入学試験問題

国語（四／五）

二、按察使の大納言の娘は、気味の悪い虫の収集に熱中しているという変わった姫君である。次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

かかること、世に聞こえて、いと、^①うたてあることを言ふ中に、ある^④上達部の御子、うちはやりてものおぢせず、^{（注1）}愛敬づきたるあり。この姫君のことを聞きて、「さりとて、これにはおぢなむ」とて、帯の端の、いとをかしげなるに、蛇のかたをいみじく似せて、動くべきさまなどしつけて、^{（注2）}いろこだちたる懸袋に入れて、結びつけたる文を見れば、

^{（注3）}はふはふも君があたりにしたがはむ長き心の限りなき身は

とあるを、何心なく御前に持て参りて、「袋など。あくるだにあやしくおもたきかな」とて、ひきあげたれば、蛇、首をもたげたり。人々、心を惑はして^②ののしるに、君はいとのどか^⑥にて、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」とて、^{（注4）}生前の親ならむ。^③な騒ぎそ」と、うちわななかし、顔、ほかやうに、「^{（注5）}なまめかしきうちしも、けちえんに思はむぞ、あやしき心なりや」と、うちつぶやきて、近く引き寄せたまふも、さすがに、^④恐ろしくおぼえたまひければ、立ちどころ居どころ、蝶のごとく、^{（注6）}こゑせみ声に、のたまふ声の、いみじうをかしければ、人々逃げ去りきて、笑ひいれば、^⑤しかじかと聞こゆ。「いとあさましく、むくつけきことをも聞くわざかな。さるものあるを見る見る、^⑥みな立ちぬらむことこそ、あやしきや」とて、大殿、^⑦太刀をひきさげて、もて走ったり。よく見たまへば、^⑦いみじうよく似せて作りたまへりければ、手に取り持ちて、「いみじう、物よくしける人かな」とて、「かしこがり、^⑧ほめたまふと聞きて、^④したるなめり。返事をして、はやくやりたまひてよ」とて、渡りたまひぬ。

（『堤中納言物語』による）

- （注1） 愛敬づきたるあり 〳 顔立ちが愛らしい男がいた
- （注2） いろこだちたる懸袋 〳 いろこ模様の首からかける袋
- （注3） はふはふも君があたりにしたがはむ長き心の限りなき身は 〳 這いながらもあなたのおそばについておりましょう、長く変わらぬ心を持つ私は
- （注4） 生前の親ならむ 〳 私の前世の親だろう
- （注5） なまめかしきうちしも、けちえんに思はむぞ、あやしき心なりや 〳 美しい姿の間だけ大切にするのはおかしな考えであることよ
- （注6） こゑせみ声に 〳 声は蟬のように甲高く

受験番号		氏名	
------	--	----	--

令和8年度 一般選抜（後期日程）入学試験問題

国語

（五／五）

問一 二重傍線部①、③の読みを現代かなづかいで答えよ。

問二 二重傍線部⑥「にて」と文法的に同じものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア やがてかしこにて失せにけり
- イ 老いにてあるわが身の上に
- ウ 長ききずにて候ふなり
- エ 清らにてゐたる人あり

問三 二重傍線部④「したるなめり」の品詞分解として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
- イ 動詞＋助動詞＋動詞＋助動詞
- ウ 動詞＋助動詞＋助動詞
- エ 動詞＋助動詞＋副詞＋動詞＋助動詞

問四 傍線部①、②、③の口語訳として最も適当なものを、次のア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ① うたてあること
- ア 訳が分からないこと
- イ 関心があるようなこと
- ウ 下劣で品がないこと
- エ 聞いて不快になること

② ののしるに

- ア 悪口を言うのだが
- イ 非難すると
- ウ 大騒ぎするけれども
- エ 騒ぎ立てるので

③ な騒ぎそ

- ア 騒がない方がよい
- イ 騒ぎなさんな
- ウ 騒ぐ必要はない
- エ 騒げるはずだ

問五 傍線部④「恐ろしくおぼえたまひけれ」、⑤「しかじかと聞こゆ」、⑧「ほめたまふと聞き」の主語を、次のア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ア 按察使の大納言（大殿）
- イ 按察使の大納言の娘（姫君）
- ウ ある上達部の御子
- エ 人々

問六 傍線部⑥「みな立ちぬらむことこそ、あやしきや」と言った時の「大殿」の心情として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア こんな不気味なものを見て皆が逃げないのはどうしてか
- イ 皆が立ちすくむほどこれには不思議な力があるのだなあ
- ウ 姫君を放っておいて皆が立ち去るとはけしからんことだ
- エ 皆が気味悪がるということがすでに良くないことなのだ

問七 傍線部⑦「いみじうよく似せて作りたまへりければ」とあるが、何に似せて作ってあったのか。文中より一語で抜き出して答えよ。



受験番号		氏名	
------	--	----	--

氏名

国語解答用紙

	総 点
--	--------

⑤	①
わ	
⑥	②
	③
	④

問三

問四

問五

[illegible]

問八

1800

問十

問 一

(a)	(c)
-----	-----

1801

問三

1

②

3

4

⑤

8

1881

問七

国語

工学部・情報学部・生物生命学部・芸術学部
(一般後期)

一	問一	①	面倒	②	驚嘆	③	絶賛
		④	維持	⑤	わずら(わ)	⑥	すいこう

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

二	問一	㉠	かんだちめ(かんだちべ)	㉡	たち

問二

問三

問四

問五

問六

問七